

27. 肝シンチグラムにおける骨髄像と食道静脈瘤の相関について住 幸治他...765
 28. ^{99m}Tc -(P-butyl) iminodiacetic acid による肝胆道シンチグラムの臨床的検討蔵本美与子他...766
 29. 肝シンチグラム診断の誤診率について高木八重子他...766
 30. 肝内 SOL における肝シンチグラフィの再評価——第3世代 CT との比較勝山 直文他...766

一般講演

1. 骨シンチで移動性多発集積を示した尋常性乾癬の1例

古川 隆 高島 澄夫 中塚 春樹
 原田 繁 土橋 宣昭 深草 駿一
 笈 弘毅 (日赤医療センター・放)

尋常性乾癬に類天疱瘡を併発した72歳の女性患者の骨シンチにおいて、脊椎・肋骨などに多発性の RI 異常集積を認め、6か月後、7か月後の骨シンチでは、初回の RI 集積の減少と他の部位に新たな集積がみられた。類天疱瘡はガンの合併率が高いことから、最初骨転移を疑ったが、原発巣は発見できず、骨 X 線像による検討では、骨折あるいは骨折の修復像を認める部位もあるが、指摘できない部位もみられた。

越智らの学会報告によれば、尋常性乾癬や他の慢性皮膚疾患において、骨シンチにより関節以外に胸骨・肋骨・胸腰椎などに高率に原因不明の RI 集積を認めるといふ。本例でも骨折部以外の RI 集積は、この慢性皮膚疾患における集積と思われる。なお、Hahn ら、Namey らの報告では、乾癬症の関節部位には高率に RI 集積を認めるが、本例ではみられなかった。本例のような慢性皮膚疾患の骨シンチにおいて多発性異常集積を示した場合、(1)骨転移 (2)骨折のほかに、(3)慢性皮膚疾患における原因不明の集積も考慮せねばならない。

2. Marfan 症候群 2 症例の RI アンギオグラフィ 所見について

金子 義伸 南 博 永井 義一
 鈴木 博也 高梨 睦子 木村 一博
 甘利 秀夫 清見 定道 高橋 一
 矢尾板信孝 坪内 研二 迫田 暎子
 今野泉一郎 山沢 靖宏 野原 義次
 (東京医大・内2)
 村山 弘泰 (同・放)

今回、Marfan 症候群 2 症例の RI angiography を施行し次のような結果を得た。症例 1 は34歳男性で、主訴は労作時の息切れと胸部不快感で高血圧、心雑音を指摘され入院となった。入院後 RI angiography を施行し、バルサルバ洞の著明な拡大みられた。また、大動脈血管造影でも Valsalva 洞の拡大と大動脈閉鎖不全症を認め、いわゆる Annulo-aortic ectasia の所見を呈していた。症例 2 は25歳男性で、主訴は突発性の動悸と不整脈で、高血圧を指摘され入院となった。家族歴では兄が Marfan 症候群と診断され、解離性大動脈瘤の破綻で死亡している。本症例ではくも状指趾と高口蓋および漏斗胸を認めたが、心雑音は聴取しなかった。入院後 RI angiography を施行し、バルサルバ洞の中等度の拡大を認め、大動脈血管造影でも同様の所見を得た。

以上の事実より Marfan 症候群が疑われる症例には RI angiography は非観血的な検査でもありスクリーニング検査としてはすぐれた方法と考えられる。また、今後 RI angiography は、その撮影方向の工夫などにより Marfan 症候群の心血管病変の有無はもちろんのこと、その程度をもかなり詳細に推察しえるのではないかと考える。